

《就労世代の健康課題》

オーラルヘルス

20~30歳代の現状把握ができていない

19歳~39歳は、法定歯科健(検)診がないため、歯・口腔の健康状態や歯科健診の受診状況等の現状が把握できていない



背景

《就労世代の健康づくりを進めるうえでの課題》

- 就労世代の制度間のつながりが明確でなく、**地域全体の健康状態が把握できない**
- 退職後の**保健指導が継続できない**
- 中小企業での健康への取組みが遅れており、体制が構築できていない

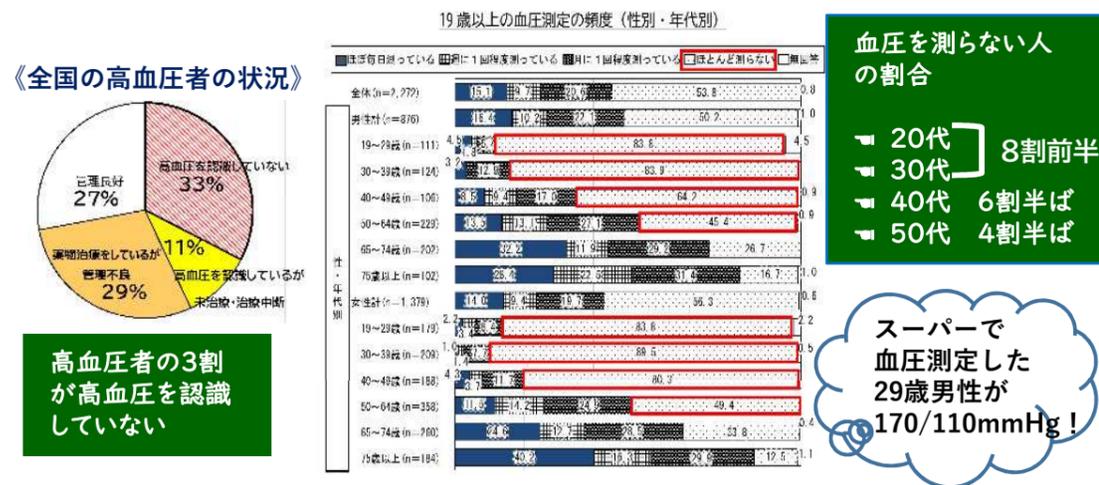
対策

地域・職域連携の推進

〈目的〉
地域保健と職域保健の連携により、健康課題や取組みを共有し、保健事業の実施に要する社会資源を相互に有効活用し、生涯を通じた継続的な保健サービスの提供体制を整備する。

高血圧

自分の血圧を認識していない



地域

- 【関係機関】
● 北九州市(健康推進課)
● 北九州市医師会
● 北九州市歯科医師会
● 北九州市薬剤師会 など

職域

- 【関係機関】
● 商工会議所
● 産業保健支援センター
● 協会けんぽ
● 組合健保のとりまとめ機関
● 労働基準監督署 など

連携

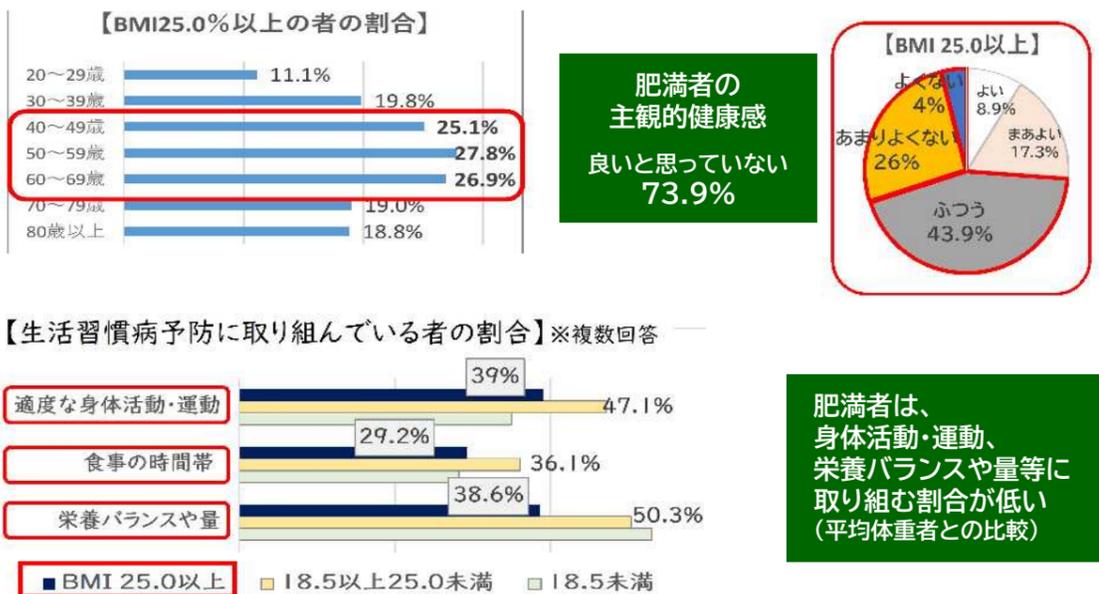
〈実施内容〉
協議体を設置し、健康課題や取組みを共有

- 【取組内容】
■ 健康増進法に基づく健(検)診(がん検診、歯周病検診 など)
■ 特定健診・特定保健指導
■ 健康教育 など

- 【取組内容】
■ 労働安全衛生法に基づく定期健診
■ ストレスチェック
■ 両立支援 など

肥満

- 40~60歳の肥満者が多く、増加傾向
- 肥満者の4人のうち3人は、健康状態が良いとは思っていないが、生活習慣病予防に取り組んでいない(標準体重者との比較)



実施によるメリット

- 《効果的・効率的な保健事業の実施》
- 地域及び職域が保有する情報の共有することにより、**地域全体の健康課題をより明確に把握**することができる
 - 保健サービスのアプローチルート拡大に繋がり、**対象者が保健サービスにアクセスしやすくなる**
 - 地域・職域で提供する**保健サービスの方向性の一致を図る**ことができる

- 《これまで支援が不十分だった層への対応》
- 働き方の変化等に柔軟に対応できる体制の構築により、**生涯を通じた継続的な健康支援を実施**できる
 - **被扶養者等既存の制度では対応が不十分ではない層へのアプローチが可能**となる
 - 小規模事業者(自営業者等も含む)等へのアプローチが可能となり、**労働者の健康保持増進を図る**ことができる

生産性の向上

生活の質の向上
健康寿命の延伸

医療費の適正化